

愛の反対は憎しみではなく無関心 生きるとは、共生の意味とは

平成28年、神奈川県相模原市の知的障がい者施設「津久井やまゆり園」が襲われ、19人が刺殺、26人が重軽傷を負った相模原殺傷事件で、横浜地裁は被告に対して死刑の判決を言い渡しました。

生きるとは

「生産性がない障がい者は生きる価値がない。」「障がい者を殺すことで不幸を最大にまで抑えられる。」など、被告は逮捕後も、およそ理解できない独りよがりの持論を発信し続けました。しかし、このような被告の意見にインターネット上では一部の方が賛同する声もあると報道されています。

日本は今、「正しさ」ばかりが求められ「優しさ」が失われていく、寛容しない社会になりつつあると言われています。

市場原理や競争原理など経済的に役立つかどうかで人を判断するのではなく、その前提には、互いを大切にし合う普遍的な人権意識がなければなりません。

誰もが誰かにとってかけがえのない必要な存在です。生きるとは偏見なくお互いを認め合うことではないでしょうか。

共生社会を築くため

マザーテレサは「愛の反対は憎しみではなく無関心」と言いました。差別を直接的にはしていなくても無関心であれば、それは差別に加担している事につながります。

様々な違いのある人々が一緒になって生き生き暮らせる共生社会を築くため、私たちの日常にバリアなどが無いか常に関心を持ち、できる行動に移したいものです。